



日本赤十字社 和歌山医療センター

Japanese Red Cross Society

医療連携だより

秋号

No.87



和歌山市小松原通四丁目20番地
TEL : 0120-965-582 (医療連携課)
FAX : 0120-937-510 (医療連携課)

(発行責任者)
管理局長 内田 一彦
e-mail : renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



令和5年度

「日本赤十字社和歌山医療センター 医療連携ネットワークの集い」開催

副院長兼医療連携総合支援センター副センター長兼産婦人科部長 吉田 隆 昭

標記集いを令和5年10月22日(日) ホテルグランヴィア和歌山にて開催いたしました。

医療連携ネットワーク会員の先生方及び当センター職員をあわせ158名の参加となりました。

昨年ご好評いただきました、パネルディスカッションに加え、4年ぶりに意見交換会を開催し、会員の先生方と当センター医師と親睦をはかり、有意義な時間を共有することができました。

今回、パネリストに得津医院 得津敬之副院長先生、和田胃腸科医院 和田祥城副院長先生、楊消化器クリニック 楊和典副院長先生にご登壇頂き、杉田副院長兼がんセンター長、中高度救命救急センター長を交え、事前アンケート調査の回答を基に、・救急医療 ・がん診療について、様々な意見交換がされました。頂いたご意見、ご要望、ご指摘に真摯に向き合い、今後もよりよい連携ができますよう、職員一同精進いたします。



開会挨拶をする山下幸孝院長

日本赤十字社和歌山医療センター 医療連携ネットワークの集い

パネルディスカッション ～日赤もっとこんなことやってよ～



日本赤十字社 和歌山医療センター
Japanese Red Cross Society

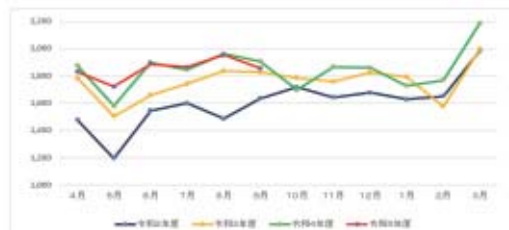


紹介件数推移



年度別月別紹介件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上半期	合計
令和2年度	1,143	1,037	1,606	1,594	1,403	1,535	1,891	1,573	1,405	1,287	1,525	1,787	8,510	17,578
令和3年度	1,578	1,405	1,723	1,627	1,646	1,662	1,769	1,711	1,815	1,465	1,262	1,687	9,336	19,137
令和4年度	1,652	1,624	1,785	1,593	1,527	1,606	1,771	1,825	1,891	1,557	1,546	1,852	9,395	19,968
令和5年度	1,578	1,654	1,818	1,720	1,699	1,670							10,137	10,137

逆紹介件数推移

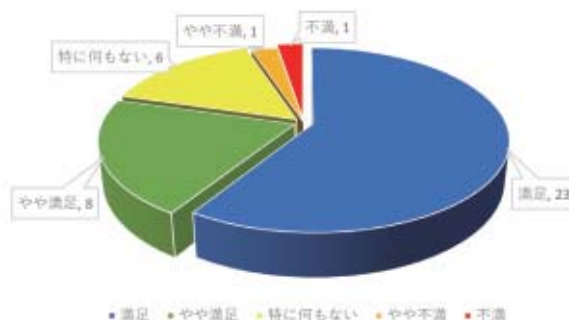


年度別月別逆紹介件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上半期	合計
令和2年度	1,476	1,130	1,544	1,596	1,485	1,533	1,717	1,541	1,675	1,628	1,849	1,982	8,951	18,223
令和3年度	1,782	1,500	1,851	1,740	1,834	1,825	1,763	1,767	1,822	1,732	1,577	1,995	10,341	21,067
令和4年度	1,872	1,579	1,887	1,845	1,929	1,905	1,696	1,864	1,859	1,735	1,767	2,182	11,057	22,751
令和5年度	1,827	1,721	1,894	1,882	1,952	1,854							11,300	11,300

パネルディスカッションアンケート ご意見・ご要望

1. 高度救命救急センターについて

	件数	比率
満足	23	59.0%
やや満足	8	20.5%
特に何も無い	6	15.4%
やや不満	1	2.6%
不満	1	2.6%
(合計)	39	100.0%



ご意見・ご要望

土日や夕方以降の紹介時に多いのですが、直接医師と話して下さいと言われることがあります。こちらが紹介したいと言っているのに、医師と話をして紹介しないということは基本ありませんし、時間の無駄になります。

対応が悪く、名前を名乗らない医師がいます。

吐血疑いの患者家族がコロナ陽性ということで、患者は濃厚接触者だが、発熱ではなく吐血疑いで紹介したら「コロナ病床がいっぱいなので…」という理由で断られた。

休日（特に日曜日）に救急患者で、胆石発作や腎結石の診断で翌日以降に当院受診を促されます。高度の治療が必要な為、再度貴院受診となることから、直接、月曜日以降に貴院担当科に予約をとれないのでしょうか。また、救急受診の後、翌日以降に当院へ受診をすすめられますが、その時に至急のデータを必ず、本人に手渡してもらいたい（口頭説明では患者の記憶が曖昧なので困る）。

回答

救急スタッフに聞き取りしたところ、直接、先生方からバイタルサインや身体所見などの詳細を確認し、事前に必要な診療科への声掛けや治療器具などの準備を行いたいとの意見がありました。

また、クリニック看護師さんから患者情報を提供していただく際は、その内容に不十分な場合があり、結局、先生方に確認することが多々あります。

当センター看護師への指導として、数年前より病態は聞かないように徹底し二度手間を防ぐ様にしておりますので、先生方におかれましては直接医師間での情報伝達にご理解ご協力をお願いしたいと思っております。

院内でご意見を周知し指導・改善いたします。

濃厚接触者の陽性率は非常に高く、本件の場合、対応可能な病院は当センターか医大などに限られ、必ず対応しなければならなかったと考えられますが、コロナ病床がひっ迫した時期も相当な期間に及んだ事もあり、ご迷惑をお掛けする形となってしまいました。

原則としましては、重い原疾患のあるコロナ陽性患者は他院では対応不可であることから、このような患者さんは全例応需するように指導・徹底して参ります。

救急受診の翌日に当センターの担当科へ受診を促すことは可能であり、実際に多々実例がございます。

本事例につきましては症状の度合いを勘案し、かかりつけ医にお任せできると対応した医師が判断したのではないかと考えられます。

なお、至急のデータは患者へ渡す事としておりますが、再度徹底するように指導いたします。

救命救急センターは、独立して治療までされていますが、専門科へ要請する場合もありますか。

救急科で完結するのは、どの科にも属さない、例えば一番多い症例としては不明熱（感染疑い等を除く）であり、他には寝たきりで意思疎通の出来ない患者さんで、施設や家族の都合で数日入院させて欲しいパターンなど多々ございます。薬物中毒、日本紅斑熱、蘇生後脳症なども対応しております。

しかし、大部分の患者さんは主傷病を判断した後、専門医へ引き継いでおり、専門科への要請は大いにございます。

高度救命救急センターへ直接 FAX を送りたい。

平日の日中であれば医療連携課へ送信いただければ、即座に救急へ転送いたします。

ただし、当センターの時間外や土曜日もクリニックが診療されていることもあり、救急外来専用の FAX 番号を周知したいと考えていますが、看護師の業務量増加に繋がるとの意見があり頓挫しています。早急に院内で協議を行い先生方の有益になるように調整を考えます。

外来中に紹介する場合は問題なく FAX 出来るが、夜間・休日や往診時に送信するのは難しく、クリニックまで移動する手間がある。メールやオンラインシステムでの対応を希望します。

画像検査・診断予約に用いているカルナコネクトを利用できないか確認いたします。併せて、専用のメールアドレスを取得し運用できないかどうか病院で協議いたします。

素早く情報を提供する為に、救急隊へ渡す救急要請シートを活用できないか。

当センターへは救急要請シートは提供されておりません。活用できればありがたいと考えます。

救急へ紹介する際に自家用車で向きたいという患者（家族）もいるが、治療を行う貴センターとしては救急車を要請した方が良いでしょうか。

距離のある所や移動に時間がかかる場合は、セカンドコールの重要性からも救急車を要請していただいた方がありがたいです。

救急受診後にクリニックで対応可能な患者をお返しいただけるのはありがたいです。翌日以降にクリニックを受診した際の症状で、再度判断すれば特に問題ないかと考えられます。

専門科の医師が作成する返書は問題ございませんが、救急担当医が作成する返書の内容には不十分なものもあり対策を講じていきたいと思っております。また、今後は返書率だけでなく、返書の内容の充実にも注力したいと考えています。

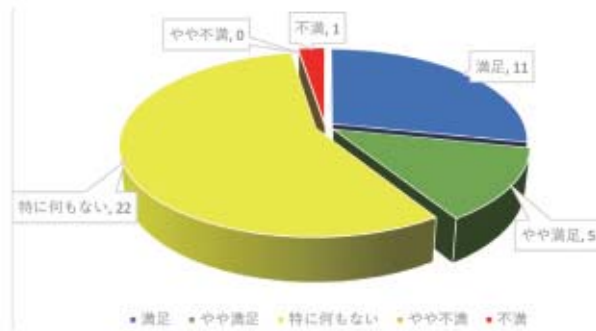
ただし、担当された医師によって返事の内容・質に大きな差があります。

パネルディスカッションの様子



2. がんセンターについて

	件数	比率
満足	11	28.2%
やや満足	5	12.8%
特に何も無い	22	56.4%
やや不満	0	0.0%
不満	1	2.6%
(合計)	39	100.0%



ご意見・ご要望

貴がんセンターでの薬物療法時の副作用（しびれ、吐き気等）に対する対応は、十分ではないと考えられるので改善をお願い致します。

がんではない（かもしれない）患者をご紹介させていただく時の宛先に、「がんセンター」と記した封書を本人へお渡しするのは気が引けます。

- ・紹介先がわからないことがあります。がんセンターユニットへの紹介基準を教えてください。
- ・どちらにすればよいのか迷い、いつも各診療科へ紹介しています。窓口は担当診療科でよいのか。
- ・消化管の早期がん病変は内視鏡治療の適否もあり、がんセンター宛てでよいのか。

貴センターはがん治療に専念いただきたいので、副作用の対応などはかかりつけ医が担うべきだと考えます。よろこんで診させていただきます。

がんゲノム医療とあるが、例えば家族性の大腸がんを発症している患者について主治医の裁量で実施となるのでしょうか。

回答

院内でご意見を周知し改善いたします。
しびれ（末梢神経障害）に関しては高頻度で発症する抗がん剤があり、そうした薬を使用する場合、医師だけでなく、薬物療法センターの看護師、薬剤師も出来るだけ副作用に関して、患者さんの訴えを聞かせて頂くようにしております。抗がん剤による神経障害が出現しているようであれば、主治医に報告し、主治医は薬剤の減量、休薬を考える体制にしています。しかし、十分に患者さんからの訴えを拾い上げられていない可能性があると考えますので、今後さらに注意して対処してまいります。

また、吐き気、食思不振にて救急を受診された患者さんが、グレード3に該当する副作用にもかかわらず点滴のみで帰らせてしまった事例もあり、重症の場合は救急の担当医だけでなく主科の拘束医が対応する運用となっており、今一度、周知徹底し、また、現在作成してある副作用対応マニュアルの見直しなども行います。

がんセンターではなく、各診療科あての紹介で問題ございません。

また、がんセンター開設後、良性疾患の患者さんにとって、わかりにくさがあった為、本館2階の受付等でがんセンターの表示を無くし、元の様な診療科の表示にし、がんセンター受診に抵抗があるような患者さんにも配慮した形へ改善しています。

紹介基準は設定しておりませんので、がんセンター、各診療科どちらに紹介いただきましても問題ございません。当センターにて判断いたします。

消化管の早期がん病変におきまして内視鏡治療の適応がある場合は、まずは内科にて精査いたしますので消化器内科あてのご紹介願います。

紹介時の病状・病態にがん（疑い）と記していただけたら、医療連携課にてがんセンター対応医の予約を取得いたします。

非常にありがたいご支援です。ただ、基本的には主治医がしっかり管理すべきと考えます。

遺伝子パネル検査で遺伝性腫瘍であることが判明する場合がありますが、この検査は治療につながる遺伝子変異がないかどうかを調べる目的で行っています。

3. その他について

ご意見・ご要望	回答
<p>定期的な入退院をお知らせして頂く FAX は症例によって不要であることもあり、お知らせが必要かどうか紹介医が選べるようにされてはいかがでしょうか。</p>	<p>昨年も同様のご意見を賜りアンケートを実施し検討をいたしました。システム上施設ごとの対応が難しく、紹介状1通ごとには設定が可能なことから事務方で手作業にて対応しますので、お手数をおかけしますが、都度ご連絡願います。</p>
<p>紹介させて頂いた患者が貴院内で転科（内科から外科など）となった時に、お返事を頂けないことがある。転科時に紹介元も申し送っていただければ幸いです。</p>	
<p>がん患者など長期の情報共有が必要となる紹介の場合、中間報告も適宜お送り頂きたい。</p>	<p>院内全体で返書作成には力を入れています。特に入院に関しては、毎日一覧を出力し事務方で確認後電子カルテにて医師へ督促を実施しています。それでも返書が遅い場合があります。医療連携課までご一報いただければ幸いです。</p>
<p>紹介状の返事がなく患者が自院に來られて、経過不明で対応することが時々あります。精査の結果報告等よろしく願います。</p>	
<p>CT・MRI など画像検査予約システムは使用しやすく返事も早いのですが、各科への患者紹介は予約がとりづらい。</p>	<p>一部の診療科において予約が2、3か月後となる場合があるのが現状で、枠の増加を当該部長に依頼しております。直接、医療連携課までご連絡いただきましたら至急の患者さんなど個別で各診療科へ相談し対応いたします。 また、診療科予約を電子カルテと連動させることはセキュリティリスクが大きいことから、オンライン上での同じような運用は難しい現状でございます。</p>
<p>睡眠時無呼吸症候群外来（呼吸器内科部）再開、希望します。</p>	<p>受診可能です。完全予約制となっておりますので、紹介状をご準備いただき医療連携課を通してご予約願います。</p>
<p>当院は小児科（6才未満は算定マルメ）ですが、例えば、呼吸状態が悪くなって紹介した場合、入院しない時のアレルギー検査（採血）は必要な場合積極的に貴院で実施いただき、また、入院時6才以上の時は、当院にて算定したいので検査を急がないものは、お互いのメリットを考えて実施調整をしてもらいたいです。</p>	<p>お互いにメリットのある事なので、小児科にて個別に話を伺い調整出来ればと考えております。</p>
<p>貴施設について知らない事も多いので、院内見学ツアーを開催されてはどうか。</p>	<p>ぜひとも実施したいです。院内の現状を見ていただき感想を頂戴したいと考えます。</p>
<p>医師の入れ替わり時（退職・異動など）の患者引き継ぎが十分に行われていない場合がある。診療に苦慮することから、同科内で患者情報を適切に共有願いたい。</p>	<p>院内でご意見を周知し改善いたします。</p>
<p>当院で受診し1か月分の処方を行った数日後、貴院を受診した際にガラリと内容の違う処方が出されて、後日当院にクレームと返金を求められる事例があった。可能であれば直近の処方を考慮した治療を選択願いたい。</p>	<p>院内でご意見を周知し調整いたします。</p>

4年ぶりに意見交換会を開催しました。

パネルディスカッションの後は4年ぶりに意見交換会を開催しました。

来賓を代表して和歌山県福祉保健部長 今西宏行様にご挨拶を頂き、和歌山県病院協会会長 中井國雄様に乾杯のご発声を頂きました。

多くの会員の先生方と当センター医師の間で様々な意見交換を行うことができ、盛会裏に終えることができました。



就任のお知らせ

10月1日付

脳神経内科部	大原寛明	(医長)
形成外科部	杉村智加	(医師)
整形外科部	木村真大	(専攻医)
消化器外科部	井上一真	(専攻医)
放射線診断科部	石川翔	(専攻医)
放射線診断科部	川村仁美	(専攻医)
皮膚科部	加山孝樹	(専攻医)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願ひします。

退職のお知らせ

9月30日付

脳神経内科部	神辺大輔	(副部長)
皮膚科部	宮崎健	(医師)
形成外科部	和田詩織	(医師)
形成外科部	中林容	(医師)
整形外科部	中田旭彦	(専攻医)
整形外科部	武本直樹	(専攻医)
放射線診断科部	中村悠理	(専攻医)
消化器外科部	山中亜希	(専攻医)

10月31日付

耳鼻咽喉科部	西村一成	(副部長)
麻酔科部	齋藤舞	(医師)
麻酔科部	中村安寿左	(専攻医)

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。



がんセンター通信 11

(骨転移ユニット)

整形外科部長

玉置 康之

がんセンター
Cancer Center

医療連携を頂いております関係者の皆様には、いつも大変お世話になり、誠にありがとうございます。

がん患者の予後延長に伴い、骨転移をきたす症例が増えています。骨転移の疼痛は QOL を低下させ、四肢骨や脊椎の転移では骨折・脊髄麻痺を招けば ADL も大きく低下させます。その結果、がん治療そのものの継続も困難になります。

骨転移ユニットは、整形外科医・放射線治療医・放射線診断医・腫瘍内科医から構成されるチームで、あらゆるがんの骨転移の患者さんについて、治療方針を検討し、主治医の診療をサポートします。当センターでは PET-CT をはじめとした最新

の画像診断機器を有しており早期診断が可能です。手術では、患部安定化、神経保護を行うことで疼痛緩和、生活活動性の維持に努めています。脊椎手術ではハイブリッド手術室などのコンピューター支援手術を積極的に行っており安全に手術が行えます。放射線治療は、保有機器やスタッフのレベルも高く、高精度な放射線治療が可能です。また最善の照射法を常に検討しています。

患者さんの希望を考慮し、上記の治療を組み合わせ、痛みを緩和し生活活動性が維持できるように最適なチーム医療の提供に努めます。引き続き御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和5年度診療科別合同セミナー・講演会実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しています。開催時には、随時ご案内しますので是非ご参加ください。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数 (合計)
7月14日(金)	消化器内科	慢性便秘症治療セミナー in 和歌山 (ハイブリッド)	アパローム紀の国	44名
7月20日(木)	整形外科	令和5年度第1回大腿骨頸部・転子部骨折地域連携バス合同カンファレンス	WEB 配信	49名
7月20日(木)	脳神経外科	令和5年度第1回脳卒中地域連携バス情報交換会	WEB 配信	66名
7月24日(月)	糖尿病・内分泌内科	糖尿病 医療連携講演会	WEB 配信	13名
8月1日(火)	リウマチ科	リウマチ web セミナー RA 診療を語る会 in 和歌山市	WEB 配信	15名
8月28日(月)	救急科・集中治療部	神経救急 Web Conference in 和歌山	WEB 配信	44名
9月6日(水)	糖尿病・内分泌内科 腎臓内科	高血圧診療懇話会	WEB 配信	25名
9月7日(木)	感染症内科	令和5年度第2回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス (ハイブリッド)	和歌山県立医科大学 附属病院 (共同開催)	79名
9月7日(木)	消化器外科	消化器癌治療最前線 (ハイブリッド)	日本赤十字社 和歌山医療センター	78名
9月15日(金)	腎臓内科	和歌山地域連携セミナー ～在宅で診る 腹膜透析～ (ハイブリッド)	日本赤十字社 和歌山医療センター	44名
9月21日(木)	感染症内科	令和5年度第3回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス	WEB 配信	126名
9月21日(木)	循環器内科 心臓血管外科	循環器疾患連携 Seminar	WEB 配信	29名
9月28日(木)	乳腺外科	第18回 Breast Cancer Network Construction Seminar	WEB 配信	9名
10月11日(水)	整形外科	骨折リエゾンサービス地域連携セミナー	WEB 配信	45名
10月13日(金)	がんセンター 呼吸器内科 呼吸器外科	肺癌診療 Network Meeting 2023	WEB 配信	21名
10月14日(土)	脳神経外科	令和5年度第2回脳卒中地域連携バス情報交換会	プラザホープ 4階ホール	64名
10月19日(木)	消化器内科	Ulcerative Colitis Web セミナー	WEB 配信	47名
10月24日(火)	腎臓内科	地域で考える慢性腎臓病治療 in WAKAYAMA ～CKD 早期診断・早期治療を目指して～ (ハイブリッド)	和歌山城ホール	113名
10月26日(木)	救急科・集中治療部 呼吸器内科 精神科	睡眠薬適正使用セミナー in 和歌山	WEB 配信	136名
10月26日(木)	泌尿器科	日本赤十字社和歌山医療センター 泌尿器科の会	アパローム紀の国	17名
10月31日(火)	脳神経外科	Hypertension Conference	WEB 配信	19名

紹介初診患者診察担当医師表

2023年11月1日現在

診療科名	月	火	水	木	金
循環器内科	部長 豊福 守 医長 伊勢田 高寛 —	副部長 田崎 淳一 医長 辻 修平 《末梢血管外来》	医長 伊勢田 高寛 医長 辻 修平 —	医長 辰島 正二郎 — —	医長 藤田 啓誠 《末梢血管外来》 —
消化器内科	院長 山下 幸孝 部長 赤松 拓司 副部長 瀬田 剛史 副部長 松本 久和 塙 悠佑 上野 昌太郎	主任部長 上野山 義人 副部長 中谷 泰樹 医長 小西 隆文 中野 省吾 筑後 英紀 —	副部長 瀬田 剛史 副部長 岩上 裕吉 下山 雅之 外村 晃平 押川 大介 —	部長 赤松 拓司 副部長 松本 久和 医長 小西 隆文 松山 和輝 脇田 碧 曾根 明日香	主任部長 上野山 義人 副部長 中谷 泰樹 副部長 岩上 裕吉 荻野 真也 中野 省吾 佐藤 雄
糖尿病・内分泌内科	《交替制》	副部長 廣島 知直	《交替制》	部長 金子 至寿佳	副部長 稲葉 秀文
※血液内科	—	赤木 佑衣奈	部長 岡 智子	—	—
消化器外科	副部長 辰林 太一 医長 山田 真規 医長 野間 淳之	副部長 奥村 公一 医長 金井 理紗 青山 諒平	副部長 一宮 正人 副部長 横山 智至 副部長 宮本 匠	部長 山下 好人 副部長 川添 准矢 寺脇 平真	主任部長 安近 健太郎 部長 伊東 大輔 佐倉 悠介
※乳腺外科	副部長 鳥井 雅恵 —	—	部長 松谷 泰男 —	副部長 鳥井 雅恵 松本 純明	部長 松谷 泰男 —
小児外科	—	医長 金井 理紗	副部長 横山 智至	—	—
※眼科	医長 川島 祐 川島 京子	吉村 昭人 《交替制》	部長 荻野 顕 —	医長 原田 康平 《交替制》	部長 荻野 顕 —
耳鼻咽喉科	部長 三浦 誠 —	副部長 曉 久美子 —	部長 三浦 誠 —	副部長 曉 久美子(隔週) 森田 勲(隔週)	副部長 辻村 隆司 —
産婦人科	副部長 山西 優紀夫(第1・3・5) 副部長 山村 省吾(第2・4)	副部長 豊福 彰(第1・3・5) 医長 日野 麻世(第2・4)	副部長 澤河 江 悠介(第1・3・5) 春日 摩耶(第2・4)	副部長 坂田 晴美(第1・3・5) 副部長 横山 玲子(第2・4)	副院長 吉田 隆昭 —
小児科	部長 徳田 光和 副部長 杉峰 啓憲	副部長 深尾 大輔 坂部 匡彦	副部長 原 茂登 副部長 横山 宏司	部長 徳田 光和 副部長 杉峰 啓憲	坂部 匡彦 前田 啓祐
泌尿器科	部長 玉置 雅弘 副部長 中嶋 正和 碓 達也	主任部長 伊藤 哲之 副部長 中嶋 正和 副部長 吉川 和朗	高橋 俊文(第1.3週) 副部長 吉川 和朗(第2.4.5週) —	部長 玉置 雅弘 医長 山田 祐也 高橋 俊文	主任部長 伊藤 哲之 医長 山田 祐也 丸野 皓平
腎臓内科	医長 嘉藤 光歩 棚尾 明 小西 諒	部長 東 義人 医長 嘉藤 光歩 児玉 健志	副部長 杉谷 盛太 医長 小緑 翔太 —	部長 東 義人 前沢 浩司 —	副部長 杉谷 盛太 大森 翔平 —
皮膚科	改正 純一	加山 孝樹	《交替制》	医長 大橋 理加	部長 米井 希
整形外科	部長 玉置 康之 副部長 田中 慶尚	副部長 田中 康之 医長 小椋 隆宏	副部長 田中 慶尚 副部長 古川 剛 木村 真大	部長 玉置 康之 医長 小椋 隆宏 前川 尚大	副部長 田中 康之 副部長 古川 剛 —
歯科口腔外科	—	副部長 清水 航治 医長 佐武 明日香	部長 平石 幸裕 —	副部長 清水 航治 —	部長 平石 幸裕(第1.3.5週) —
※放射線治療科	副部長 小倉 健吾 —	部長 根来 慶春 立石 雄大	—	部長 根来 慶春 —	副部長 小倉 健吾 立石 雄大
脳神経外科	《交替制》 部長 津浦 光晴	副部長 武本 英樹 —	《交替制》 —	部長 津浦 光晴 《脳血管内治療専門外来》	—
※麻酔科	—	副部長 吉村 聖子	医長 宮崎 里紗	—	副部長 片岩 真依子
呼吸器内科	副院長 杉田 孝和 —	副部長 阪森 優一 《睡眠時無呼吸専門外来》	河内 寛明 濱田 健太郎	部長 池上 達義 —	副部長 寺下 聡 —
心臓血管外科	部長 金光 尚樹 —	—	部長 金光 尚樹 《静脈瘤外来》	—	—
※脳神経内科	部長 山下 博史 湯川 佳代子 山中 治郎(隔週) 安達 智美(隔週)	大原 寛明 孝橋 睦生(隔週) 成宮 悠爾(隔週)	部長 山下 博史 中村 大和(隔週) 河村 祐貴(隔週) —	山田 健 木下 久徳 —	大原 寛明 平田 真也(隔週) 平山 典宏(隔週) —
※精神科	部長 東 睦広 —	—	—	部長 東 睦広 —	—
形成外科	杉村 智加 《小児形成外科外来》	部長 奥村 慶之 —	成山 晃弘 —	杉村 智加 —	成山 晃弘 —
呼吸器外科	—	部長 石川 将史	副部長 池田 政樹	—	部長 石川 将史
※心療内科	—	部長 阿部 哲也	—	—	部長 阿部 哲也
※リウマチ科 (非常勤医師)	秋月 修治(第1・2・4・5) 中島 友也(第2・4)	岡本 翔太 松宮 遼	船越 莊平 納田 安啓	—	別役 翼 福村 麻綾(第1.3.5週)
※漢方内科	—	—	部長 山田 伸	—	—
感染症内科	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》
※緩和ケア内科(午後)	部長 一宮 正人 筒井 一成	吉村 聖子 —	宇山 志朗 —	部長 一宮 正人 —	阿部 哲也 —
※腫瘍内科	—	—	—	川上 尚人	—
※遺伝性腫瘍ユニット	—	—	副部長 豊福 彰(午後)	川上 尚人	—

赤字…女性医師 ※…完全予約制(当日初診で紹介いただく場合は事前に電話でご相談ください。)

はがんセンターユニット担当医師(がん診療以外も対応させていただきます。)